

見上げた空がクリーンであるよう 今できる一粒の種をまこう

しながわ ECOだより

品川区環境情報活動センターだより

2012年度 Vol.2

小学生が夏休みに 環境をテーマとした勉強と実験、工作 を楽しみました

生きもの博士になろう 7月22,23,30日

(環境情報活動センター、しながわ中央公園)

講師：NPO法人生態教育センター 村松亜希子氏、佐藤真人氏

①みる、きく、さわる！ 五感で自然遊び

<見る>スライドを使って、草木等に隠れている虫探し。
<嗅ぐ>ドクダミ、クサギ、ローズマリーなど特徴のあるにおいを嗅ぎ取りました。
摘ませていただいたハーブを使って石けんをつくりました。



②遊んで発見！植物の魅力

植物の葉っぱを観察し、公園では植物探しのビンゴゲームを行いました。植物について楽しく学ぶとともに、葉っぱのスタンプでオリジナルエコバックを作りました。



③生きものに挑戦！

アリのように、においを嗅ぎ分けながら食べ物にたどりつくゲームで生きもののおどろきの技を体験しました。公園ではチョウが卵を産む葉っぱを探すゲームをしました。また、公園で拾ってきた葉っぱや枝を使って 昆虫ポストカードを作りました。



室内での体験ゲーム、工作、そして公園での自然観察と、バラエティーに富んだメニューに、子どもたちの弾ける笑顔、真剣な眼差しが印象的でした。

キッチンからはじめるエコロジー

地球にやさしい旬の料理をつくろう！

8月1,2,3日(ぎゅりあん調理講習室)

指導：東京ガス株式会社南部支店

エコクッキングインストラクターのみなさん

身近な「食」を通して楽しみながら環境問題を考えようというこの講座には、子どもと保護者計132名が参加しました。調理室は連日美味しい香りど、元気な子どもたちの熱気でいっぱいでした。

環境に配慮した「買物」・「料理」・「片付け」に



至る一連の流れの説明、調理を通じた「食の育成」についての話と調理のデモンストレーションが行われました。旬の食材を買う、無駄なく使う、省エネな湯の沸かし方、洗い方の工夫で水を節約、チラシをごみ入れとして使用、汚れた皿は古布で拭いてから洗うなど、誰にでもできるエコなポイントがたくさんあります。

それでは実習開始です！

今年のメニューは「ecoオムライス」と「いちごみるく寒天」の二品です。どちらも美味しくできました。いただきま〜す。自分たちが調理した料理の美味しさはひとしおでした。



こんな講座を開催しました

平成24年4～8月

4月29日、30日 (一般)

さき布から“ぞうり”を作ろう
古布を使ってオリジナルぞうり作り



5月13日 (小学生と保護者)

林試の森公園で自然の不思議発見！
公園内で五感を使って自然観察



5月20日 (一般)

カナダ極北の大自然の動物とイヌイットの人たち
地球温暖化の影響によるカナダ極北
の野生動物たちの暮らしの変化



6月3日 (一般)

今年こそ緑のカーテンを作りましょう
作り方を学び、種を蒔き、持ち
帰った材料で続きは各家庭で



6月9日 (一般)

「江戸」の市民生活の実情を探る
「江戸」がエコロジー社会を形成していた話

6月17日 (小学生)

身近なもので作ろう
“世界でひとつの立方体万華鏡”



LEDや省エネについて学び、光の不思議を体験

6月24日 (小学生)

牛乳パックで立体めがねを作ろう

牛乳パックの2ヶ所を切り抜き、レンズ
を入れ、視差のある2枚の写真を見ると
なんと3D画像が！



7月8日 (小学生と保護者)

風力発電機を作ろう

ペットボトル、羽根車、モー
ターで風力発電機作りと実験



7月13日 (一般)

地球の温暖化とエネルギー問題

エネルギー環境が変化している昨今、
環境・エネルギー問題についての話



8月10日 (小学生と保護者)

小学生のための“牛乳パックではがき作り”

牛乳パックの原料である森林資源の話聞き、手すき
のはがきづくりを体験

秋の七草「ススキ」

いよいよ食欲の秋到来です。春の七草がどれも食べられるのに対して秋の七草（ススキ、ハギ、キキョウ、ナデシコ、オミナエシ、フジバカマ、クズ）は花を愛でる風流なものです。七草が季節でこのような違いがあることはふしぎです。

秋といたら一番に「ススキ」が挙げられます。山里では8月中ごろススキの穂が出始めます。

日中の陽射しが強くとも、穂が風に揺れる様子は、秋の訪れを感じるのに十分な光景です。平地でススキが花盛りになる頃は、名月観賞の時期に重なります。

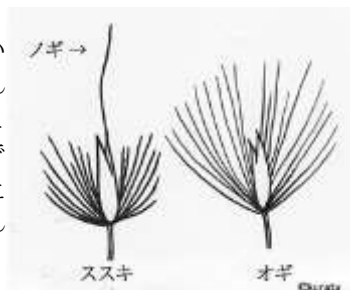


さて花はどれでしょう。イネの仲間には花びらはなく、穂にはおしべとめしべだけが付いています。この時期穂全体は、赤っぽく見えます。穂がふわふわになり、種が熟したら、風に乗って飛んでいきます。この時期のススキを、キツネやタヌキのような動物のしっぽに見立てて「尾花」とも呼びます。

ススキは「薄」と書きますが、この字は草が生い茂る状態をいい、もともと固有の植物を指したのではないようです。

もう一つのススキという字「芒」はノギとも読み、これは小穂のトゲ状の突起のことです。ただ字の下の部分が「亡」なので日本では「薄」が好まれて使われるのでしょうか。

ある時「ススキがきれいねー」という人に「あれはオギ」と言ったところ、秋の風情を楽しんでいるので、名前を聞いたわけではないとしかられました。



「♪河原の枯れすすき」

に出てくるのは、この「オギ」の方で、湿地に生えるススキの仲間です。オギには「ボウガヤ」という呼び名もあり、ススキと較べて大型で、穂は白が勝っています。オギにはノギはありません。

茅葺屋根にはススキが使われますが、カヤは「茅」「萱」で表わされるように、イネ科の総称として使われる場合も数多くあります。

屋根をふき、家畜のえさとなり、人の暮らしとかかわりが深い「カヤ」は野生動物の住みかにもなります。利用の代表はなんとといっても「カヤネズミ」でしょう！写真はイネに作られた「巢」です。



秋の景色になくはならないススキは、庭園にも植えられています。見かけたらノギの有無や花、穂の色の具合など、確かめてみましょう。

(環境カウンセラー 倉田智子氏提供)

冬に向かって節電してみませんか！

1年の中で夏の電力需要が多いことはよく知られていますが、冬の需要も多いことをご存知ですか。いろいろな節電の方法をご紹介します。

冬の夕方の消費電力が多いのは、

①エアコン、②照明、③冷蔵庫、④テレビ、④電気カーペットの順です。通常、エアコンを使用していない家庭では、①照明、②冷蔵庫、③テレビです。



- 重ね着などをして、室温20℃を心がける。
- 窓には厚手のカーテンを掛ける。



- 不要な照明をできるだけ消す。



- 画面の輝度を下げる。
- 必要な時以外は消す。



- 冷蔵庫の設定を「弱」に変える。
- 扉を開ける時間をできるだけ減らす。
- 食品をつめこまないようにする。

〔「冬期の節電メニュー（ご家庭の皆様）」
平成23年11月 経済産業省 より〕



- 早朝にタイマー機能で1日分をまとめて炊く。•保温機能は使用せずに、よく冷ましてから冷蔵庫に保存する。



- 便座保温・温水の設定温度を下げる。
- 不使用時はふたを閉める。

【待機電力】•リモコンではなく、本体の主電源を切る。•使わない機器はプラグを抜いておく。

【その他】•省エネ家電に買い替える。
•白熱電球を電球型蛍光灯やLED電球に交換する。

自然エネルギー探訪記（第2回）直接メタノール型燃料電池搭載のヨットでクルーズ体験

今回は、大阪まで出張し、世界でも珍しい燃料電池とモーターを搭載したヨット「ブルーノア号」に試乗する機会がありましたので、レポートします。



燃料電池は、シリーズ名「自然エネルギー探訪記」の“自然エネルギー”に該当するかというと微妙ですが、燃料に水素やメタノールを利用し、二酸化

炭素排出が大変少なく、クリーン電源として脚光を浴びているものです。この燃料を太陽光や風力発電など自然エネルギーを使って生産すれば、そのエネルギーを燃料のかたちで備蓄し、必要なときに利用することが可能になります。

燃料電池の詳しい解説は省きますが、簡単に言うと、燃料である水素と空気中の酸素を、燃料電池セルという容器の中で反応させて電気を取り出すという、電池というよりは“発電機”です。

すでに都市ガスから水素を生成する“エネファーム”という家庭向け燃料電池が実用化され、一般販売されています。また最近では、2015年に大手自動車会社が燃料電池車を発売する計画という新聞報道もありました。

ヨットの場合は基本的には風まかせですが、無風時、非常時にはディーゼルエンジンなどの動力を使ってスクリューを回し、航行します。この動力を燃料電池とモーターで代替するわけです。燃料はメタノール水溶液。船舶には水素ガスより安全で取り扱いやすいそうです。

試乗したブルーノア号の船底には、発電能力250W燃料電池（写真右下）、2.4kW出力モーター、燃料供給系装置、リチウムイオンと鉛蓄電池、充電器等で構成される駆動システムが設置されていました。

関西国際空港が間近に臨めるマリーナからの出航、帰航時にモーターで航行。本当に静かで排ガス臭もなく、海や風、自然を感じたいヨットマンには格好の未来の動力を体感できました。

1級小型船舶操縦士の免許を持つオーナーの岩崎孝彦氏は、この燃料電池システムの有効性、耐久性等の運用実証のために、今年9月、大阪からシンガポールまで6000kmの単独航海に挑むとのこと。採用されたドイツ製の最新鋭燃料電池は試作レベルで、まだ高価。しかし、住宅、車、船舶、家電製品や産業機器等にも用途が広がって、量産効果により価格は確実に下がっていくでしょう。かつて携帯電話で起こったような、爆発的な普及を予感しました。それは超小型分散型のエネルギー革命です。

（品川区環境記者 林彰一氏提供）





7月22日(日)三木小学校で開催された‘品川区民まつり’の中で「打ち水大作戦・しながわ2012」が行われました。

夏の風物詩である打ち水は、江戸の昔から行われている暑い夏に涼をとる暮らしの知恵です。カウントダウンの後、「しながわを涼しくしよう！」のかけ声に合わせて一斉に打ち水が

始まりました。今年の「打ち水大作戦」は7月22日から8月23日まで、区内十数地区で開催されました。



8月4日(土)荏原中延・昭和通り商店会において、毎月第一土曜日に開催されている「夕市」の中で「打ち水」が行われました。

打ち水をする前と後の気温は地上1mで1℃弱、地面近くの温度は1.5℃以上、下がりました。

午後5時半過ぎという打ち水



を行うには適した時間帯で、その後も涼しさを感じることができました。



品川区環境情報活動センター 秋の講座ご案内

●秋の寄せ植え (一般)

野菊(アシズリノジギク、イズオトメ)とキンカザンススキの寄せ植えをします。
日時/10月26日(金)13時半~15時半
講師/角方悦子(秋草会会員)



●光の実験~白い光の正体を探ろう (小学生)

色が見えるということの原理を学び、LEDがなぜ環境にやさしい照明なのか、実験を通して学びます。
日時/11月11日(日)14時~16時
講師/久保利加子



●原種チューリップと草花の寄せ植え (一般)

原種チューリップ・リトルビューティと草花の寄せ植えをします。
なお、チューリップの開花は4月頃で、写真はイメージです。
日時/11月18日(日)14時~16時
講師/奥 峰子(園芸文化協会理事)



●野生動物を語る (一般)

美しい地球を美しいまま子孫に引き継ぐことは、私たちの使命です。写真を通してそれを伝えます。
日時/12月2日(日)14時~16時
講師/吉野 信(写真家)



●牛乳パックでからくり人形を作ろう (小学生)

自分で工夫して作ったからくり人形を動かしましょう。
日時/12月9日(日)14時~16時
講師/池上景子



(アズビル(株)教育担当)

●正月の寄せ植え (一般)

植物の魅力、特徴、育成を解説し、梅に笹、ヤブコウジなど季節の草花を添えて、お正月の寄せ植えをします。
日時/12月14日(金)13時半~15時半
講師/山崎光世(山草会会員)



講座の名称、開催日、内容などはいずれも予定です。応募方法等については「広報しながわ」や品川区環境情報活動センターのホームページに掲載します。

しながわECOだより 2012年度Vol.2

発行：品川区都市環境事業部環境課

編集：特定非営利活動法人
エコタウンしながわ

発行日：平成24年9月18日

住所：〒140-8715

品川区広町2-1-36

品川区環境情報活動センター内

TEL/FAX：03-5742-6533

E-mail：center@shinagawa-eco.jp

HP：http://shinagawa-eco.jp/

本紙は古紙を配合した用紙で作成しています